

夢を目指す皆さんへ贈るメッセージ



信末 洋希

現在、あらゆるスポーツ分野で、様々な資格を持った方がスポーツトレーナーとして働いています。その中で、柔整師として必要とされている部分としては、診断能力、応急処置の対応、脱臼の整復、施術技術、解剖学的知識だと思います。

これらのことが当たり前にでき、“それ以外のことを行える”柔整師が、これから必要とされる柔整師だと思います。

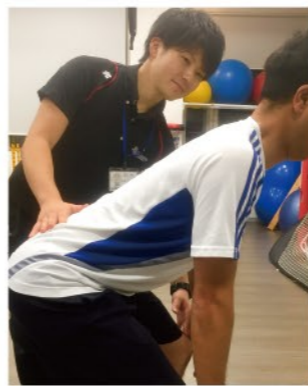
自分が将来、最終的にやりたいことを考え、それに向けて年数単位のビジョンを描くことが、がんばりと結果を生む、と信じています。



トレーナー部門10名のスタッフのうち、国家資格、柔道整復師の取得者は信末さん一人。医師の診察室の隣の部屋で、問診、整形外科テスト、ケガに応じての固定などを行っています。ここには、**トレーナーが看護業務の介助をすること、現場に出たときに役に立つからという院長の方針により、看護師が不在。手術の準備や介助、注射の介助、清潔操作などもトレーナー科の仕事です。**病院2階には併設のフィットネスジムもあり、そこでのトレーニングの指導も信末さんの仕事。小学生から後期高齢者まで、幅広い方への指導を担当しています。

会員さんのほとんどが、何かしらの疾患を持たれた方。日々の仕事で、**柔整師に最も必要な診断能力や応急処置での対応力の学びそのもの。手術後のアスレティックリハビリテーションやストレングストレーニング、高齢者の方に向けてのトレーニング指導なども学ぶことができています。**

「トレーナーという職業は、信用や出会いがすごく重要な仕事」という信末さん。そのために、学生時代から、同じ職種や学びの方ばかりでなく、たくさんの方と出会い、つながりと信用を大事にしてきました。柔整学科2年生のときに、スポーツジムでのアルバイトを通して取得した介護予防運動指導員。現在の仕事には直接関係ありませんが、将来、広島に帰って自分の院を開く際には、この資格も生かしたいと、夢を語ります。



13

医療法人みどりクリニックトレーナー科 勤務

信末 洋希さん

■柔整学科 2015年卒業12期生

信用や出会いが、 すごく重要な仕事。

スポーツジムでのアルバイトを通して取得した介護予防運動指導員。
将来、広島に帰って自分の院を開く際には、この資格も生かしたい。

野球に打ち込んだ高校時代。週に1度来られるトレーナーの仕事内容を目の当たりにして、**将来の職業**として意識します。高校3年生のとき、トレーナーになるためには何か資格が必要と思い、国家資格である**柔道整復師**の取得をめざしてIGLに入學しました。

入学と同時に、スポーツジムでのアルバイトを開始。働いていく中で、**将来はトレーニング指導も行っていきたい**と思うように。2年生になると、学校近くの治療院で、アルバイトとして柔道整復師の職務内容を勉強する機会に恵まれます。学業との両立で忙しくなりましたが、IGLでの3年間、夢につながる2つのアルバイトを経験したことで、**柔道整復師として、トレーニング指導と施術が行えるトレーナー**になりたいと、さらに強く、はっきりとした将来像を持つことになりました。

卒業後、信末さんは、縁あって三重県津市の整形外科、医療法人みどりクリニックでトレーナーとして勤務します。すべてはスポーツを愛する人のために、がコンセプトのみどりクリニック。